

仕入先への責任



仕入先と方針・目標を共有し、オープンでフェアな取引を通じた共存共栄をめざし、経営環境の変化に即応したものづくりの実現と戦略的グローバルパートナーシップの構築に努めます。



■ サプライチェーンの取り組み

CSR 調達の取り組み

矢崎グループでは、仕入先とCSRに関して共通認識をもち、ともにCSR活動を推進することを目的に、2015年11月に「仕入先様CSRガイドライン」ならびに「仕入先様CSR自主点検チェックシート」を策定し、国内外約570社に配布しました。仕入先には本ガイドラインに基づいたCSRを推進していただくことに加え、各社の仕入先に対しても同様に展開いただくよう、お願いをしています。

2017年度は、人権・労働に重きを置いていた「仕入先様CSR自主点検チェックシート」を見直し、安全・品質、人権・労働、コンプライアンス、環境、リスクマネジメントといったCSR全般に関する仕入先の取り組み状況を確認することとしました。これまでに、約400社の国内仕入先に配布し、自主点検の実施をお願いしています。今後は海外仕入先にも同様に実施する予定です。これからも仕入先との対話をもとに、サプライチェーン上のCSRリスクを低減し、ステークホルダーからの信頼を獲得して、持続可能な調達の実践に努めます。

矢崎グローバル仕入先総会の開催

矢崎グローバル仕入先総会は、仕入先と双方向のコミュニケーションを通じて、調達方針や課題を共有するために、毎年1回開催しています。

2017年7月の総会では、原材料、電子、計器、ワイヤーハーネス部品の仕入先に、設備・資材、物流の仕入先9社を新たに追加、国内外157社にご参加いただきました。当日は社長から、矢崎グループを取り巻く経営環境と「ものづくり企業としての原点回帰」をコンセプトとした重点施策を説明しました。

また調達室長からは、グローバル体制に基づく調達部門の位置づけと、リスクマネジメント・安全・品質・環境をベースとした「顧客満足度100%に向けたダントツナンバー1の確保」に関する調達方針を共有するとともに、お客様へ最適提案を行うための活動とCSRの推進をお願いしました。

さらに、仕入先との相互協力を一層深めるため「矢崎の“グローバル調達の最適化”」をコンセプトに技術交流会を開催し、仕入先から矢崎グループの部品事業競争力の強化に向けたご提案をいただきました。矢崎グループからはグローバル調達の最適化に向けた活動事例、開発アイテムを紹介したほか、仕入先同士の意見交換の場としてもご活用いただきました。



矢崎グローバル仕入先総会

仕入先との共存共栄に向けた取り組み

矢崎グループでは、主要な仕入先31社との共存共栄に向けた協働会「矢栄会」において、定期総会や情報交換会などを通じ、サプライチェーン全体のCSRの推進と日常管理の徹底をお願いしています。

また、矢栄会活動では、矢崎グループ調達方針に基づく複数の勉強会を開催しており、「CSR活動の推進」をテーマとした勉強会には、会員会社9社が参加し活動しています。

今後も仕入先とのコミュニケーションを密にし、共存共栄に向け取り組みを継続します。

紛争鉱物調査への対応

矢崎グループは、調達活動における社会的責任を果たすとともに、自動車メーカーをはじめとするお客様からの要請に対応するため、紛争鉱物の国際団体であるRMI (Responsible Minerals Initiative) の会員として、毎年サプライチェーンを遡って紛争鉱物調査を実施しています。2018年6月には仕入先向けに紛争鉱物調査説明会を開催し、99社・129名の仕入先に対し、CSR調達の考え方や調査への対応方法を説明し、調査に対するご理解とご協力をお願いしました。今後も仕入先と一層の連携を図りながら、コンフリクトフリーな原材料調達をめざします。